

## Libro de Alexandre (X)

Translated by OTA Tsuyomasa

### Abstract

The Libro de Alexandre is a great epic poem that consists of 10,700 lines and was supposedly written in the first third of the thirteenth century. This poem is not an ordinary biography of Alexander the Great, because the story is interrupted by many diverse episodes such as those of the Trojan war which took place about 1200 years B.C. according to historians, and those of the Old Testament. Alexander the Great is a personage of the fourth century B.C. and this poem is written in the thirteenth century A.D. So, in this work by an unknown author, perhaps a cleric, a mixture of ages is seen everywhere and that is the most remarkable characteristic of this epic poem.

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way), the style of which has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This time traslation is made from the strophe 1762 to 1967.



## アレクサンダーの書 X

太田 強 正 訳

アレクサンドレの書は13世紀の最初の約30年の間に書かれたと推測される10700行からなる大叙事詩である。

これは33歳で早世したアレクサンダー大王の伝記であるが、普通の伝記とは異なり、大王が活躍した紀元前4世紀、トロヤ戦争が起こったと言われる紀元前約1200年、そしてこの叙事詩が書かれた紀元後13世紀の話が混然として描かれている。

作者は無名の聖職者であろうと言われているが、Gautier de ChatillonのAlexandreisを底本として、その他の伝記、伝承を基にこの叙事詩を書いたようである。

作品はメステル・デ・クレレシーア（mester de clerecía）と呼ばれるもので、中世スペインの主に聖職者による教養階級の文学の流派のものである。これは文字の読み書きのできない吟遊詩人（juglares）によるメステル・デ・フグラリーア（mester de juglaría）と対をなすものである。

形式はクアデルナ・ビーア（cuaderna vía）と呼ばれる1行14音節同音韻4行詩である。

今回は第1762連から第1967連までを掲載する。

訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補わなければならない箇所があった。

人名・地名などの固有名詞は原則、原文に従いスペイン語読みとし、日本で普通用いられているものについてはそれに従った。

翻訳に当たっては現代スペイン語訳の他、英訳を参照した。また部分訳ではあるが日本語訳も参考にした。

1762 戦闘が終わり決着がつくと

ダリウスの手の者たちは散々に打ち破られていました

しかしギリシャ人たちは神が与えた勝利で

すぐに心痛をすべて忘れました

1763 アレクサンダー王は、しかし怒っていました

ダリウスの苦痛を忘れておらず

良き王は悲しみ悩んでいまし

というのはダリウスがどこに放置されたのか分からなかったから  
です

1764 ギリシャ人たちは丸一日休息しました、歩けなかったからです

大いに戦い、動けませんでした

アレクサンダー王は皆に武器を下ろして休むように命じました

そして負傷者を手当てし、死者を葬るように

1765 累々と横たわる死者を探し回っても

ダリウスの戦車は見つかりませんでした

見つからなかったので悲嘆に暮れ

見つけたものには褒美を与えることになりました

- 1766 皆すでにうんざりして、疲労で横たわっていましたが  
ポリストラトゥスが<sup>179)</sup> 暗い谷でそれを見つけました  
非常に暑かったので冷たい水を探していると  
全くの幸運でそれを見つけたのです
- 1767 馬たちは、ひどい傷を負っていたので、苦しみながらも  
倒れるまで歩きました  
もうまったく弱りきって  
皆足を伸ばして王の前に倒れました
- 1768 小さな谷の真ん中に小川が流れていて  
それは澄んだ尽きることのない良質の泉から流れ出ていました  
ずっと流れ下り<sup>まきば</sup>牧場を潤していました  
—本当に美しい谷でした—
- 1769 ポリストラトゥスは川の水源を探していて  
—水源はいつももっと寒いものです—  
湧き水の出る小さな野原で  
彼は動物の死骸と空の戦車を見つけたのです
- 1770 ダリウス王の近くに御者たちが死んで横たわっていましたが  
もう一方の側には家来たちが死んで横たわっていましたが  
その中にはその善人（ダリウス）がいました  
彼が真ん中に、他の者達が周りに

- 1771 その戦車は豪華に飾られていて  
ダリウスは高貴な外見だったので  
ポリストラトゥスはそこから確かめて彼だとわかり  
すぐにこの知らせを持ってアレクサンダーのもとへ走りました
- 1772 アレクサンダー王は皇帝ダリウスに非常な悲しみを覚えました  
自分の兄弟だったとしても、これほどではなかったでしょう  
彼の家来達は皆大きな悲しみに泣いていました  
皆が言っていました：《裏切り者ベッススに災いあらんことを》
- 1773 人々はダリウスから血と汚れた衣服を取り去り  
非常に豪華な絹の衣装を着せ  
金色の靴と拍車を履かせました  
手袋は二つの結婚の持参金でも買えないでしょう
- 1774 人々はダリウスに明るいとても光沢のある冠をかぶせました  
—それは人の頭には今までかぶせられたことのないものでした—  
純金で細工され、一面に宝石が施され  
ダリウスも生涯これ以上のものをもったことはありませんでした
- 1775 アレクサンダー王はダリウスを床に寝かせ  
手に笏をもたせ、大きな敬意を払いました  
哀れを催し、恨みを忘れました  
—そうしなかったら、心安らかではなかったでしょう—

- 1776 王は悲しみに涙を抑えることができず  
マントで何度も拭いました  
王は枕元から離れようとしませんでした  
食事の時間以外は
- 1777 王は目から涙を流しながら嘆き始めました  
王は言いました：《ああ、ダリウスよ、お前は何をするつもりだったのか  
お前は私の手から逃れ、自由になろうとして  
結局さらにひどい手に落ちることになった
- 1778 もしたまたま運命が望むようになって  
お前がギリシャ人たちの情けにすぎることになっていたら  
お前は疑いなく知り、確かめたらう  
この世にこんなに穏やかな権力はないと
- 1779 お前は私だけを主人と崇め  
私のもとで王国を支配できたろう  
私はお前にすべてを命じさせてやったろう  
そしてお前から他の貢ぎを決して取ろうとしなかったろう
- 1780 お前は言うところの子羊の例を示した  
それは犬を恐れ、道から外れた  
狼の方へ逃げ、地の果てに落ちた  
お前はこれと同じ方法で騙された

- 1781 お前は決してアレクサンダーを疑うべきではなかった  
彼の方を向けば、彼はお前に名誉を与えることができたろう  
お前は地獄に、ひどい所に落ちた  
獣が皆お前を貪ることになった
- 1782 お前は海のすべての危険から逃れ  
他の乾いた所では危険な目に会うことになった  
お前は川を最後まで渡りきって  
ついには乾いた所で溺れることになった
- 1783 ダリウスよ、お前の値打ちはいつまでも語り継がれるだろう  
お前だけが果敢に私と戦った  
お前は破れたけれど、恥じ入ることはない  
なぜなら私は名うてのアレクサンダーなのだから
- 1784 しかし一つのことにはお前はとても運に恵まれている  
お前の全帝国を良く治めたことだ  
お前の愛する息子を、私が生きていたら、養子にして  
娘たちには立派な結婚をさせてやろう
- 1785 お前に約束することはすべてちゃんと果たすつもりだ  
もし神が私に命を与えてくださなら、それを違えるつもりはない  
もしこれを果たせなかったら、私は自分を呪いたい  
神がお前の死に方で私も死なせてくださるように



- 1786 神が私に私の望みを果させていただきますように  
アジアを従え、アフリカを征服し  
モロッコの塔を手に入れることを<sup>180)</sup>  
そして私が言っているように、私は違えるつもりはない
- 1787 それから私をスペインに渡らせて  
セビリヤとトレドとガリシアを従えさせていただきますように  
そして海が流れるようにフランスとドイツも  
もし神がお望みになれば、私はお前の復讐をするつもりなのだから
- 1788 このように最後にはロンバルディアに渡り  
大きな町ローマを私の支配下に置き  
わが町コリントに世界の主として入ることができるだろう  
私が言っているように、違えたくない
- 1789 そのような事を君主にする臣下たちは  
できたとしても私にはそれ以上ましな事はしなにだろう  
裏切り者に一度でも慈悲を示す者には  
創造主が決して慈悲を示すことのないように》
- 1790 王は非常に悲しみ、素晴らしい言葉を吐き  
臣下たちをもひどく泣かせました  
多くの行列がダリウスの遺体に祈りを捧げました  
臣下たちによってこれ以上の名誉を与えられることはできなかったでしょう

- 1791 そうこうしているうちにアペレスが埋葬を執り行いました  
まず墓を作り、それから覆いが掛けられました  
台座は同じ寸法の三段になっていて  
継ぎ目がわからないほどしっかり付けられていました
- 1792 彼は墓に大きな驚異を描きました  
太陽や月や星がどのように運行するのか  
夜とその後昼がどのように過ぎていくのか  
五月に婦人たちがどのようにコレア<sup>181)</sup>を踊るのかを
- 1793 どの土地がパンとぶどう酒に良いのか  
どの民が富んでいて、どの民が貧しいのか  
どの地からどの地に道が通じているのか  
その道を巡礼者たちがどのように歩くべきなのかを
- 1794 そこにはギリシャ人たちが描かれていて、ラテン人たちが何をしていたのかも  
そして老人サウル<sup>182)</sup>もすべての隣人たちと共に  
海や近隣の川がどのように横たわっていたのか  
大きい川が小さい川をどのように飲み込むのかも
- 1795 リビアは穀物が豊富に満ちていました  
アモン<sup>183)</sup>は非常に雨の少ない地で  
エジプトがそれを十分に潤しています  
象牙はインドにあり、それ故とても有名です

- 1796 アフリカは宝石が豊富にあり  
 そこに有名な町モロッコがあります  
 ギリシャはアテネによって知恵に照らされています  
 ローマはティベル河畔にあり、しっかりした城壁に囲まれています
- 1797 ヒパニアの諸民族はなんと軽快なのだろう  
 勇敢な騎士のフランス人たちも描かれていました  
 素晴らしいぶどう酒を蓄えるシャンパーニュ  
 香を大量に測るシバ<sup>184)</sup>
- 1798 ブリタニア人たちがアーサー王のことをどんなに自慢しているか  
 ノルマン人たちがどんなに誇り高い男たちなのか  
 イギリス人たちは寛大な心を持った美しい人たちで  
 ロンバルディア人たちは貪欲で、ドイツ人たちは短気なことが描かれています
- 1799 そこに彼は数を書いています、なぜなら諳んじていたので  
 世界がいつ作られたのか、何歳だったのか  
 三千九百十二歳は下りませんでした  
 ―今は六千四百年経っています―
- 1800 アペレスは墓碑銘を漠然と（した書き方で）作りました  
 ―それをダニエル書<sup>185)</sup>から取りました、そこに記されていたように―  
 彼は非常に教養のある学者だったので

自分の職務についてのすべてを良く覚えていました

- 1801 《ここに象徴的な羊が横たわっている、その二本の角を  
全世界の槌であるアレクサンダーが砕いた  
二本の角とは二つの王国、つまりペルシャ人とメディア人の》<sup>186)</sup>
- 1802 《ここに羊が横たわっていて、その二本の角を  
ギリシャ生まれのアレクサンダーが砕いた  
不実な仲間ナルボソネスとベッスス  
これら二人がひどい裏切りで彼を殺した》
- 1803 工事は完成し、墓は建てられました  
それは柱の上にバランス良く建てられ  
丹念に細工されていたので、継ぎ目は見えませんでした  
このことはこのように名誉ある王に相応しいものでした
- 1804 王はその間にダリウスの体にバルサム剤を施させました  
バルサム剤が施されると、墓に運ばせ  
非常な名誉をもって彼の体を覆い、納めさせました  
神がもしそうしてくださるなら、彼の魂をお助けくださいますよ  
うに
- 1805 人はこの世のことを決して信じるべきではありません  
それはこのような悪い結果をもたらし得るものです  
それは身分の低いものも高いものも許すことを知りません  
我々はこの世のことであの世のことを忘れるべきではありません

- 1806 それは回り続けることを望まない車のようです  
不運な人間は身を守ることができません  
おいしい話を持ってきて私たちに欺すことを知っています  
決して一つの状態にじっとしていることができません
- 1807 それは人をいい地位に就けると  
言います《もっと偉い人に譲りなさい》そしてその人を罰しよう  
として  
生まれた時のように土に返します  
そしてすぐに騙せる他の人々を探しに行くのです
- 1808 人がこの世を去ることになると  
少しのお金も持って行かせません  
獲得したものはすべて残して行くことになるのです  
そして彼の不倶戴天の敵どもがそれを手に入れることになるので  
す
- 1809 それはおいしい話で人から分別を奪います  
彼に思い出させるようなことは忘れさせます  
肉が主人で、精神は従僕です  
—女房が亭主に家を掃かせるのです—
- 1810 悪魔は不幸な人間に化身し  
彼を貪欲にして道から外れさせ  
自分が何からできているかを忘れさせます  
世は愚弄して彼をからかいます

- 1811 人が分別を持って行動したいと望むなら  
心の内で自分の元の姿を想像できるはずです  
彼は土から出来ているので、土に戻ることにあります  
これはどんな力も妨げることはできません
- 1812 このように偉大で優れたダリウス王でも  
最後はやっと狭い穴を持ったのです  
彼の王国はイナゴほどの価値ありませんでした  
この世に信を置く者は自分自身を恥ずかしめるのです
- 1813 人は将来のことを考えるべきです  
どんな褒美を最後に受け取ることを期待するのか  
悪い生き方をすれば、不幸に見舞われることになるでしょう  
善人は願う以上の栄光を見るでしょう
- 1814 我々は忘れっぽいのでこの世を見て  
我々が作られた形を忘れています  
いかに神によってその美しさに擬えて作られたのかを  
我々は判断を誤って野獣のように生きています
- 1815 富が与えられると、我々はいくらもほろぼれます  
それを土に埋め、締めり屋になります  
我々是我々キリスト教徒よりもそれを愛します  
そして最後には無節操な人間のようにそれを失います

- 1816 我々は貪欲に独り占めし、節度を忘れます  
神に対しても、隣人に対しても我々は正しくありません  
神は手の施しようのない我々を見捨てます  
我々は我々の上に大いなる怒りを見ます
- 1817 農夫たちは正しく十分の一税<sup>187)</sup>を収めようとしません  
お互いに粗探しすることを好み  
暇な時は自分の減びを探し求めます<sup>188)</sup>  
彼らの間では貪欲がよく支配しがちです
- 1818 職人の間では大きなごまかしが横行しています  
偽物を作り、縫い目をごまかし  
わずかな金を得るためすぐに偽証します  
こういった事により創造主を失います
- 1819 行商人たちは多くのごまかしを知っています  
彼らは商品を高く売りつけます  
人はそのすべての企みをを言うことはできないでしょう  
彼らは手数料を手に入れることができない日には死にたいと思  
います
- 1820 多くの者は激しい貪欲で高利貸しになります<sup>189)</sup>  
二を与えて四を取ります、納税者から取るように  
不幸者たちは金で魂を売ります  
裁きの日に彼らには弁護士は役に立たないでしょう

- 1821 王や君主たちは黒い強欲で  
正義を売りに出し、大繁盛しました  
彼らは愚かさを禁じるよりも宝を積むことを愛しています  
その様な貪欲で世界は失われています
- 1822 司祭も参事会員も、確かに、修道院も<sup>190)</sup>  
まったく正しく歩んでいません  
罪深いことに皆邪悪な道を歩んでいます  
それ故説教も正しく行われません
- 1823 もし聖なる祭壇の司祭たる者たちが  
各々自分の持ち分を立派に果たしていれば  
世俗の君主たちはこんなに残酷ではないでしょうし  
私たちもこんなにひどい苦しみに会うこともないでしょう
- 1824 我々は過てる罪深い平の司祭です  
高位聖職者たちは富んで傲慢です  
彼らは受け取ることににおいては聡く、他のことにおいては怠惰で  
す  
それ故聖人たちは怒っています
- 1825 選挙では敵意が大いに出来ます  
ある選挙では力によって、他の選挙では聖職売買によって  
彼らは年齢も、分別も、学識も要求しません  
それ故正しいことが全くできません



- 1826 人々は高位聖職者を恐れていませんから  
彼らの親類の女と結婚し、道を踏み外します  
世帯持ちの女が世帯持ちの男と不倫します  
それ故私たちは神から見放されるのです
- 1827 この様なことをする者たちは、後に泥棒になります  
いつも悪事を思い巡らし、裏切りをし  
悪者として悪例を残します  
彼らの血はたっぷり十代に渡って受け継がれます
- 1828 よく見ると、臣下や君主  
騎士や聖職者、そして農夫  
修道院長や司教、そして羊飼い  
皆異なった欠点があります
- 1829 それ故、悪魔は非常に大きな力を持つのです  
悪魔は人間に敵意を植え付けます  
我々を兄弟姉妹で争わせ  
いかにして私たちをよりひどく愚弄できるか探し求めます
- 1830 悪魔は臣下を君主に刃向かわせ  
ひどい事に、彼らを殺させ  
我々が見ているこんなに秩序のない世界から  
我々はできる限り自分自身を護るべきでしょう

- 1831 ギリシャ人たちはダリウスを葬った時に  
自分たちの戦いは終わったと思いました  
皆喜んで自分の家に帰りたいと思いました  
もしアレクサンダー王が許してくれれば
- 1832 そうこうしているうちに軍にうわさが広まりました  
ダリウスが死んで埋葬されてから  
負けたことのなかったアレクサンダー王が  
苦難を克服してギリシャに帰りたがっていると
- 1833 軍のうわさは非常に勢いがあつたので  
布告されたとしてもそれほどには信じられなかったでしょう  
わずかな時間で杭が抜かれ  
馬に鞍が置かれ、荷が用意されました
- 1834 王はそれを知り、とても怒りました  
父が死んだ時にもこれ以上は悩みませんでした  
彼の貴族会議を招集すると  
半時間も経たないうちに全部集まりました
- 1835 集まると王は話し始めました  
《男たちよ、お前たちをおとなしくさせようとしているこれは何  
なのか  
我々は悪い時に生まれ、海を渡った  
もしこんなに乏しい戦果で帰ることになったら

- 1836 我々は今準備ができています  
我々の辛苦に良い結果を与えるために  
お前たちは私のために獲得した土地を私から奪う  
私は強大な力から無になってしまった
- 1837 勝利の代わりに我々は不名誉を持ち帰るだろう  
利益の代わりに損失をもって行くだろう  
ギリシャに帰ったら、男たちよ、我々は何と言おう  
我々が獲得したものから何を報告しよう》
- 1838 男たちは言いました：《ご主人様、我々をいじめないでください  
我々はすべてあなたのお気に召すようにしましょう  
我々はあなたがどこへ行こうとあなたについていこうと思います  
あなたが滅びる事は我々は心から望まないでしょう
- 1839 しかし人々を喜ばせてください、彼らはすでに帰りがついていますから  
我々にあなたが言っている事を彼らに分からせてください  
皆結局はあなたが喜ぶ事をしたがるでしょう  
彼らは決して得たものを失いたくはないでしょうから
- 1840 王はそこでよく裁きを行っていた椅子を据えるように命じました  
広場の真ん中の一番良い場所に  
そして大人も子供も周りに陣取るよに命じ  
良き王は話し始めました

- 1841 《友たちよ、お前たちの望みは良く分かっている  
お前たちが私と歩んで長い時間が経った  
故郷に帰りたいだろう  
神が私を祝福されんことを、お前たちは正しい
- 1842 お前たちには隷属から解放された故郷がある  
お前たちはあらゆる不正にまったく染まっていない  
お前たちの大いなる堅固さは証明されている  
お前たちの少数は他の者たちの大勢よりも価値がある
- 1843 お前たちは私と共にもっと多くの土地を獲得した  
他の王が町を築いたよりも  
お前たちはお前たちのヒゲに十分に名誉を与えた  
ダリウスは聞かれればそう言うだろう
- 1844 もし私たちが獲得したこのことがしっかり確保され  
あるいは安定していると確信したら  
お前たちの望みを喜んで適えてやろう  
なぜなら私はギリシャの味を忘れていないのだから
- 1845 私は妹たちや母に会いたい  
彼女たちは私と一緒に、私は彼女たちと一緒に嬉しく思うだろう  
しかし私はこの後に二つの問題が残ると思う  
それによって我々は得た物をすべて失うかもしれない

- 1846 征服はうまくいったが、首尾よく終わってはいない  
ペルシャは破れたが、まだ完全に平定されていない  
我々の習慣に照らして確認されなければ  
我々のしたことは無になると思え
- 1847 時はことを制御する—と書にある—  
それは本来獐猛な鳥や獣を馴らし  
洪いナナカマドを静かに熟させる  
これはすべての被造物に当てはまると思え
- 1848 当然の恐れから我々に降伏した者たち  
もし我々と彼らの間に愛がなければ  
我々が去ったら、彼らは別の主人を持つだろう  
我々はこんなにひどい過ちに陥るのだろうか
- 1849 我々は彼らと少し馴染んでいこう  
彼らはわれわれの言葉と法を知っていき  
我々と共にいることを喜ぶようになるだろう  
その後、我々は陽気に笑って去ることができるだろう
- 1850 第二の問題をお前たちに示したい  
そのことを我々は皆深く考えなければならない  
我々は自分たちの事柄をしっかりとおくべきである  
我々の後継者たちが我々を非難できないように

- 1851 ダリウスは死んだけれど、我々は何も獲得していない  
裏切り者たちを生かしておく  
我々が去った後すぐに王国に帰って  
我々が解放した弱い者たちを滅ぼすだろう
- 1852 人々は我々に戒められたので  
単に大胆に抵抗はしないだろう  
偽りの手が帝国を支配するだろう  
その手は十年前に切り落とされるべきだった
- 1853 しかしもしお前たちが自分たちの仕事を正しく行いたいなら  
良き医師がよくするようにしよう  
彼は傷口から悪い肉を取ろうとする  
良い肉が腐らないように
- 1854 根を張らない悪い草を切り取り  
首をもたげないようにしよう  
売女の息子である裏切り者を  
殺す者は許されると書にある
- 1855 我々が行くことになる時は、自信を持って行こう  
そうしなければ、我々は皆虐げられ、非難されるだろう  
これらの者を滅ぼすなら、我々はもっと尊ばれるだろう  
我々のすべての功しは首尾よく終わるだろう

- 1856 お前たちには意思もつもりもなかった  
裏切り者を捕らえることができて、彼を許すという  
パウソナと君主を殺した他の者たちが  
お前たちにこれ以上ない法を与えた
- 1857 お前たちが常に持ち続けた良き忠誠心によって  
そして裏切り者を決して許そうとしなかったことから  
お前たちは願うよりももっと良く神に導かれた  
お前たちは今まで通りのことをし続けるべきだろう》
- 1858 皆王に答えました：《王様それはよく分かっています  
あなたは非常に正しいことを仰っています、我々はそれを果たそ  
うと思います  
お望みの時はいつも一緒しましょう  
しかし裏切り者たちには間をあたえないようにしましょう》
- 1859 アレクサンダーは彼らが満足しているのを知りました  
王は彼らが冷めてしまう前に直ちに発つように命じました  
彼らは直ちに発ち、道につきました  
裏切り者たちに対して彼らは熱くなっていました
- 1860 彼らはイルカニア<sup>191)</sup>に入り、直ちに征服しました  
しかしその間多くの血が流されました  
彼らは裏切り者のナルボソネスを生きたまま捕らえ  
侵攻は成功したと思いました

- 1861 そこには生まれるべきではなかった大貴族がいて  
その甘言で王を打ち負かすことになりました  
火が鉄を柔らかくするように、彼は王を懐柔しました  
彼によってナルボソネスは死を逃れることになりました
- 1862 神は私が心から悔やんでいることをご存知です  
——神がこの仲裁者を哀れまじたりしませんことを——  
私の考えでは——本当のことを言いたいと思います——  
王はその善良さをひどく損ないました
- 1863 そこにいる王の元に素晴らしい女王が訪ねて来ました  
フェメニーナと呼ばれている地<sup>192)</sup>の女主人です  
彼女は幼い時からカレストリスと呼ばれていて  
医療用としても男を伴っていませんでした<sup>193)</sup>
- 1864 彼女は俊敏な馬に三百人の処女を乗せてやって来ました  
彼女たちは同数の騎士と戦うことも厭わなかったでしょう  
皆確実な攻撃を加えたり  
弩を放ったり、待ち伏せを仕掛けたりする達人でした
- 1865 彼女たちの地では男を入れません  
その領地の境に場所が設けられていて  
そこで彼女たちは年に三度夫と同衾します  
このように男たちはすべて同意しています



- 1866 女の子が生まれると、母親が育てます  
男の子が生まれると、父親のもとに送ります  
双方そこから利益を得ます  
各々の地では高値がつきます
- 1867 彼女たちは肩から斜めにかけたマントを着て  
首に弩と鹿狩りのためのものをつけて  
いろいろな形の矢と投げ槍をもってやって来ました  
皆馬を走らせながら攻撃することを知っていました
- 1868 彼女たちは常に生活に苦勞していたので  
—あらゆる戦いに手を染めなければなりません—  
右側はより身軽にしてありました  
なぜならその側の手がより自由に動くからです
- 1869 彼女たちは外見上もう一つの手を打ってあります  
右の乳房を大きくならないようにように焼いています  
もう片方はより保護され得るので  
子供を育てるために大きくなるままにしてあります
- 1870 衣装は彼女たちの脚の中程まであります  
—もう少しのところで地に触れるところ—  
しっかり縛ったひじょうにぴったりした下帯をつけていて  
その姿はまったく男に見えます

- 1871 他の事はすべて置いて、話を続けましょう  
女王の事、それを話しましょう  
創造主のお陰で、こういう事だけは言えます  
私たちは話す時間も題材も十分に持っていると
- 1872 カレストリス女王は優雅にやって来ました  
高価な、すべて正絹の衣装を纏い  
海岸育ちのオオタカを手にとらせて  
—それは少なくとも十二回羽が生え替わったものでしょう—
- 1873 彼女はほっそりしたとても美しい体をしていて  
三掌尺の革紐を二重に巻いていました  
この世にこんなに綺麗な顔立ちはありませんでした  
どんなに金を積んでももっと美しくはならないでしょう
- 1874 額は白く明るく落ち着いた感じで  
上弦の月よりもさらに明るく輝いています  
—彼女の側ではフィロメナ<sup>194)</sup>も何の価値もなくなるでしょう  
フィロメナについてはオビディウスが長い詩に詠んでいます—
- 1875 眉毛は絹の紐のようで  
均整が取れていて、高い鼻から離れていました  
それは非常に柔らかく静かな影を落としていたので  
どんな貨幣でも買うことはできなかったでしょう

- 1876 目の美しさは非常に高貴なものでした  
均整が取れたまつ毛は同じ大きさで  
大きく開くととても魅了的で  
—完璧なキリスト教徒をも怠惰から目覚めさせたことでしょう—
- 1877 鼻は非常に整っており  
アペレス<sup>195)</sup>でもまったく文句のつけようがなかったでしょう  
唇は形がよく、口は均整が取れていて  
歯はきれいにそろっていて、凝乳のような白さでした
- 1878 彼女はとても清々しく色白で  
皇帝にはまったくふさわしい客人だったでしょう  
棘のあるバラはとても美しい花で  
朝露に濡れるとこれ以上素晴らしく見えるものはなかったでしょう
- 1879 彼女の美しさについては私はこれ以上語りたくありません  
誰かに誤った欲望を抱かせるのを恐れているからです  
彼女の容姿は語るができないでしょう  
木を歌わせたオルフェウス<sup>196)</sup>でも
- 1880 アレクサンダー王は彼女を迎えに出ました  
王が来るのを見ると、彼女はとても喜びました  
二人は右手を差し出し、音を立てて握り合い  
挨拶のためにお互いの肩に接吻しました

- 1881 王は礼儀正しく彼女の馬の手綱を取り  
よりよく接待するために、自分の天幕に連れて行きました  
軽食の時間に彼女が食べ終わると  
王は彼女の用件を尋ね始めました
- 1882 《女王よ、私はあなたがどこから来たのか知りたい  
あるいはどんな理由でここにいるのか  
あなたの求めることは何でも聞き届けられるだろう  
あなたの頼みは拒絶されることはないだろう
- 1883 もしあなたが富を望むなら、創造主のお陰をもって  
十分にあげよう、とても喜んで  
もし我々と住みたいのなら  
ギリシャ人たちはその皇帝と共にあなたを敬おう》
- 1884 《かたじけない—とカレストリスはその約束のことを王に言いま  
した—  
私はお金を得に来たのではありません、旅芸人ではありませんか  
ら  
男と生活を共にすることは私の法がさせてくれません  
しかし私はあなたに応えたい、私の望みをあなたに打ち明けたい
- 1885 私はあなたの噂を聴きました、非常な幸運と  
非常な判断力、大きな力、寛大さと節度の持ち主だと  
皆があなたを恐れて、非常に不安に思っています  
私はどんな体からそのような大きな恐れが出ているのか見に来ま

した

- 1886 その上私はあなたから贈り物をもらいたい  
あなたの子供が欲しいのです——いやとは言わないでしょうね——  
この世にあなたと同等の血筋はないでしょう  
それ故あなたは私に反対すべきではありません
- 1887 もし男の子だったら、あなたに送り返しましょう  
神が私を災いから守ってくだされば、私はあなたの子供をしっかりと保護しましょう  
子供が生まれるまでは、決して馬には乗らないでしょう  
もし女の子だったら、私の王国を譲りましょう》
- 1888 王は言いました：《それは嬉しい、喜んでそうしよう》  
王は森へ飛んでいき、大いに鹿狩りをしました<sup>197)</sup>  
女王は自分の使命を十分に果たし  
喜び満足して自分の王国へ帰って行きました
- 1889 ベッススはこの間恐怖に駆られ  
隠れるために名前を変えました  
ブラクタの地では安全でした  
しかし首に恐怖をぶら下げていました
- 1890 この不実者は大きな兵力を集めて  
ギリシャ人たちと戦う用意ができていました  
しかし最後にすべてが決着してみると

戦闘で満足のいくような勝利を収められませんでした

1891 王のもとへ間諜がやって来て、そのことを知らせました  
伝言にこれ以上喜んだことはありませんでした  
すぐに家臣たちに馬に乗り出発するように命じました  
ダリウスに全力で復讐したかったのでしょう

1892 家臣たちは莫大な戦利品を得ていたので  
金銀を非常に豊富に持っていました  
彼らはこれは自慢ではなく、本当だと言っていました  
フランス<sup>198)</sup>の荷馬もそれを運べなかったでしょう

1893 荷は大きく運ぶことができませんでした  
彼らはそれを非常に苦勞して得たので、失いたくありませんでした  
運ぶのに行軍の日々をうまく利用できませんでした  
嘗てのように自分たちを恐れさせることはできませんでした<sup>199)</sup>

1894 分別のある王は心の中で考えました  
すべての戦利品をひとまとめにして  
まとまったら、火をかけることを  
すべて燃えて炭になるように

1895 王は直ちに全議會を招集し  
手に入れたものをすべて示すように  
そして自分の分は喜んで出そうと言いました

《ご主人様—と皆が言いました—我々はあなたの命令に従いましょう》

1896 王がまず初めに自分の分を出して見せました  
わずかな値打ちの物も取って置こうとしませんでした  
それから皆が自分の分を保管していたところから全部出しました  
戦利品が集められると、大きな山になりました

1897 王は自分の手で松明に火をつけ  
すべてを火で覆いました、心は全然痛みませんでした  
小銭も燃やしました  
それがあたかも藁であるかのように痛みは感じませんでした

1898 皆大きな被害に悔やんでいました  
たとえ悲しんでいても、不満を隠していました  
王が自分の物を火に焼べたので  
一言も言うことができませんでした

1899 結局は気を取り直して、良いことにしました  
厄介な荷物を運んでいることを知ったのです  
無事でさえいれば、また他の物を得ることができるでしょう  
忌々しい宝のために、名声を失うことを望みませんでした

1900 決して眠らない悪魔は  
常に悪事を企てるのですが  
その呪われた獣は動き回り

自分で笑えるようなことを画策しました

- 1901 良き皇帝はバクトリアの近くに来ていました  
そこには裏切り者のベッススが隠れていました  
皇帝はもう少しで大きな被害を受けるところでした  
全然恐れていない所で
- 1902 人々は王を殺そうとする企みがあると知らせました  
王が非常に信頼している人々がです  
私たちはここではそれを隠して黙っていようと思いますが  
事はすべてフィロータス<sup>200)</sup>に降りかかることになります
- 1903 勇者フィロータスは完璧な王子でした  
アレクサンダーには彼以上に苦勞した臣下はいませんでした  
しかしこの事に関しては非常に不幸な男でした  
悪魔の罠から自分を護る事を知らなかったのです
- 1904 悪い血筋の男たちが悪事を企み  
良き王を殺すために仲間を作りました  
フィロータスはカバリノー<sup>201)</sup>から真実を知りました  
その狂人は三日間その事を秘密にしておきました
- 1905 諺が言うように、奸計はありません  
結局は失敗しないような  
アレクサンダーは他のところから確かな事を知りました  
彼はフィロータスの反論にもかかわらず許そうとしませんでした



- 1906 しかしひょんなことで言われないように  
アレクサンダーは激怒で真実を曲げてしまったと  
証人たちを使ってフィロータスが気違い沙汰を犯したことを証し  
しました  
彼は不運にもそれを否定できませんでした
- 1907 アレクサンダーはフィロータスを石打ちにすることを命じました  
彼の名誉ある父も同じような目に遭いました  
多くの者が彼を擁護しますが、私は気に入りません  
した事は償うべきです、私は彼らに満足していませんから
- 1908 七日経つと喪の悲しみは忘れられ  
王は高揚してバクトリアに入りました  
ベッススに襲いかかるのに掛かり切りでした  
この世の利益に彼はさほど満足していなかったのでしょう
- 1909 その不忠者は王の前に出ることはできませんでした  
うまく逃げるために山に隠れました  
しかし退くことも隠れることもできず  
そこでついに倒れることになりました
- 1910 王はダリウスの兄弟を伴っていました  
彼を非常に信頼し、秘書にしていました  
王はひどく愚弄するためにベッススを彼の手に乗せました  
邪悪な裏切り者として処刑するために

- 1911 ベッススの魂は呪われ、体は処刑されました  
まず嘲られ、それから磔にされました  
魂は滅び、体は引き裂かれました  
地獄に落ち、ユダと抱き合っています<sup>202)</sup>
- 1912 良き皇帝アレクサンダーは十分に戦い  
良き戦士として十分に証しされました  
良き皇帝ダリウスを打ち破り復讐しました  
しかしまだスキタイ王国を欲しがっていました
- 1913 そこで直ちに執拗な怒りに駆られて前進しました  
その様は水かさの増した急流のようでした  
有名なタナイス川<sup>203)</sup>の畔で  
疲弊した軍に天幕を張るよう命じました
- 1914 タナイス川はスキタイとバクトリアの境にあります  
それが両者を分けていて  
ヨーロッパとアジアはそこで分かれています  
水量は豊富で底知れずです
- 1915 ギリシャ人たちは巧みに橋を渡し  
三日の後にそこから川を渡りました  
しかし彼らが野営地を出る前に  
アレクサンダーのもとに知らせが届きました

- 1916 スキタイから王のもとに伝令がやってきたのです  
彼らは 20 人で、皆騎士でした  
聖なる生活を送っている人々で、素朴で誠実でした  
彼らのうち誰も硬貨を十二まで数えることができませんでした
- 1917 彼らが王の前にやって来ると  
年長の者が話し始めました  
皆が彼に聞き入りました、気に入ったからです  
彼はとても話し上手で、良き論客でした
- 1918 彼は言いました：《王様、もしあなたの権力が  
あなたの心をもっていて、そう見せようとしているほど大きいの  
なら  
海も陸もあなたを抑えることはできないでしょう  
あなたはジュピターから帝国を奪おうとしている
- 1919 もしあなたが右手を東洋に置き  
左手を全西洋の端に置くなら  
他のすべてがあなたの意のままになるでしょう  
それでもあなたはわたしの考えでは満足しないでしょう
- 1920 あなたがすべての民を屈服させると  
海を囲み、魚を征服し  
底に沈んでいる地獄を破壊し  
どこから生まれたのか分からない対蹠地の人間を征服しに行くで  
しょう

- 1921 最後にはあなたは許可と時間があれば  
喜んで雲の登ろうとさえし  
太陽からその職務を奪い  
あなたの手で世界を照らそうとするでしょう
- 1922 あなたは神に頼んだことをすっかり達成しました  
ダリウスからは自由になり、ベッススにはちゃんと復讐しました  
名誉あるうちにゲームはお止めなさい  
手が変われば、あなたは大損するでしょう
- 1923 あなたはペルシャ、メディア、そしてカルデア、  
フリギアとバクトリア、リビア、エジプトとユダヤ、  
そして他の多くの地方を支配下に置いています  
それでもまだあなたは戦いを止めようとしません
- 1924 あなたはずっと上りたくなり、下ることになるでしょう  
またずっと走りたくなり、倒れることになるでしょう  
あなたは飲むために死ぬ水腫患者のようです  
飲めば飲むほどますます渇きを覚えるのです
- 1925 自分を抑えるこのできない強欲な者は  
小さなサクランボに躓いて転落します  
強欲が彼を盲目にし、上に登らせます  
そして頂上から地獄へ落とすのです

- 1926 わたしの言うことを信じようとしなくとも、あなたに何が起こるか言ってあげましょう  
ごくつまらない物のために他のすべてを失うかもしれません  
あなたが一番手の内に持っていると思う物をです  
人々はあなたがいないというだけであなたを見捨てるでしょう
- 1927 あなたが征服した者たちはあなたと同郷ではありません  
大きな不満を持っていて、あなたに忠実ではないでしょう  
あなたから多くの被害を受けたことをすでに分かっているからです  
かれらは主君とかそういった者を失ったのです
- 1928 王様、もう十分です、議会もそのように判断せんことを  
あなたは獲得したもののために十分に戦いました  
もしさらに戦うのなら、あなたは誤った助言を受けることになるでしょう  
あなたは口一杯に頬張った食べ物で窒息するかもしれないからです
- 1929 我々と戦うことであなたは何も得ないでしょう  
我々に言いがかりを付けたり侵入したりしないでください  
我々はあなたに小さな損害も大きな損害も与えないでしょう  
我々を憎しみ続けるべきではないでしょう
- 1930 王様、もしあなたが我々がどんな生活を送っているか知ったら  
我々が思うには、我々のことなど気にも留めないでしょう

我々は山で生き、家を知りません  
わずかな価値の物も自身では持っていません

1931 お宝を蓄えるのは我々の習慣ではありません  
明日のことを考えることすら思い浮かびません  
われわれはどんな商品も扱えません  
土から取れる物以外は

1932 我々は日々の糧を土から得ています  
冬も夏もその乳を吸っています  
狂人か悪党以外は  
そういった人間は兄弟でも我々と住むことはないでしょう

1933 もし我々に損害が発生しても、おとなしく耐えます  
神が与え、神が奪い給う<sup>204)</sup>、我々はこの事を理解しています  
我々は神に決して過大な事は求めません  
神が我々に与えるものは何でも感謝します

1934 我々は不和には全く賭けません  
争いも確執も決して好みません  
我々は神にその正義をすべて帰します  
隣人に決して尊大な振る舞いはしません

1935 我々の祖先はそのような生活を送りました  
良き聖なるものとしてこの生活だけを守りました  
我々は彼らが保ったその生活を保ちます

なぜなら彼らは完璧な生活を築いたと思うからです

1936 この事すべての他にまだ私はあなたに言いたい  
我々は軽快な民で、征服するのは難しい  
向きを変えて逃げる準備が十分にできています  
我々は投げ槍と矢で攻撃する事をよく知っています

1937 我々はどんな妨害にも邪魔されません  
我々は財産も着るものも多くは持っていませんし  
住む所も決まった場所はありませんが  
我々は世界から捨て去られないだろうことは知っています

1938 失うことを恐れず、得ることを望まない者は  
恐れや不安なしに戦うことができます  
なぜなら何か持っている者は蓄えることを望むからです  
多くの事が彼らを妨げることになりかねません

1939 王様、我々はあなたと戦いたくはありません  
そこで我々をそっとしておいてくださようお願いします  
わずかな事で我々に敵対しないでください  
もしそうしてくださるのなら我々は満足します》

1940 うまく話したその善良な男は黙りました  
議会の承認は得られたでしょう  
しかし王はそのことにまったく関心を示さず  
彼らにその様な言葉には驚かないと言いました

- 1941 王は彼らの地に侵入し、攻撃しました  
思ったより甚大な損害を受けました  
しかし彼らは結局守りきれず  
王はひどい損害を受ましたが、彼らを打ち破ることになりました
- 1942 王はスキタイを征するとペルシャに戻りました  
勇敢で獐猛な民はすっかり平定されました  
アレクサンダー王とその恐るべき臣下は  
その様なすざましい遠征に大した時間をかけませんでした
- 1943 多くの民が土地々で身を隠しました  
ギリシャ人たちに決して攻撃されることはなかったでしょう  
しかしスキタイ人たちが見事に平定されたのを見ると  
皆首うな垂れて降参しました
- 1944 王は皆に対して非常に穏やかだったので  
誰も彼に不満を抱くことはできなかったでしょう  
皆に非常な愛情を示したので  
実の父であっても、これ以上愛されることはなかったでしょう
- 1945 名誉ある髭を生やした角の生えたヤギ<sup>205)</sup>は  
すでに世界を一つにしていました、神に感謝<sup>206)</sup>は  
というのは全アジアを彼の支配下に納めていたからです  
そこで全インドを除いては彼には何にも残っていなかったのです



1946 アレクサンダーはインドをどうなっているのか見に行き

ポロ王をその居所に探し

彼の王国の真ん中で彼を塩水に漬け<sup>207)</sup>

生け捕りにして、剣で殺そうと思いました

1947 しかし出発する前に

ダリウスに誓ったことを果たそうと思いました

彼の育てた息子を養子にし

騎士に叙されたらペルシャ王にすると

1948 ペルシャの人々が分かると

アレクサンダーがこの様に情け深いと

全能の王である神に感謝<sup>208)</sup>を捧げました

彼らはダリウス王は贈り物だと思いました

1949 慈悲深い王は非常な節度を示し

それですべての民から大きな祝福を受けました

王はダリウスに約束を果たそうと思いました

嘘つきだとかふざけていると言われないように

1950 月は五月でした、素晴らしい時で

小鳥たちは楽しそうにくつろぎ

まきば  
牧場は美しい衣装で覆われます

夫を持たない夫人はため息をつきます

- 1951 結婚式を挙げるにはちょうど良い季節です  
花々や薫風がそれを和かく包んでくれ  
少女たちが一緒になってその五月の歌を歌い  
お互いに返歌を交わすからです
- 1952 夜に気持ちの良い露が降り  
穂が出た穀類が花を咲かせ  
婦人達は薄いシャツで飛び跳ねます  
この時に何人か男たちが結婚し、後でその髭を引っ張ります <sup>209)</sup>
- 1953 少女も老婆も愛にうっとりして  
お昼に牧場<sup>まきば</sup>に花を摘みに出かけます  
お互いに上手な返歌をかけ合い  
もっとも優しいものが最良とされます
- 1954 日は十分に長く、野は再び緑になり  
小鳥達は毛が生え換わります  
人を刺すアブはまだ発生しておらず  
若者たちは衣服をつけず下帯で戦います
- 1955 アレクサンダー王は完璧な体で  
非常に爽快な気候が気に入り  
満足して、総会を招集しました  
ベルシャでそこに出席しなかった人はいませんでした

- 1956 もしあなたが何の事だか分からいなら  
嘘だと思ふ事でしょう  
しかし私はあなた達に他の文をすべて残しておきましょう  
あなた達に原文を明らかにし、注釈を始めることにしまし  
う<sup>210)</sup>
- 1957 私はあなた達に短く概要をお話したい  
—あなた達にわずかな事から長い説教集を作ってほしくはありま  
せん—  
王はダリウスの娘との結婚を望んでいます  
才気に富んだ優美な女性ロサネとです<sup>211)</sup>
- 1958 結婚式は豪華に執り行われました  
料理を乗せた手押し車が行き交い  
夜も昼もテーブルが並べられていました  
テーブルにはクロスが敷かれ、料理が盛られていました
- 1959 肉と魚が非常に豊富にありました  
雄牛と牝牛と多くの鹿の肉です  
すべて良く調理された料理が出され  
各々にそのソースが添えられていました
- 1960 プレゼントや贈り物は盛大で数多くありました  
吟遊詩人たちは絹織物も豪華な衣装も欲しがりませんでした  
これらの者のうちそこには多くの音楽を奏でる者が大勢いました  
他には鈴を鳴らす者や道化師がいました

- 1961 この結婚式は丸 15 日続き  
毎日高櫓が的にされました  
ペルシャ人たちは自分は安全だと思っていました  
彼らは戦いに敗れたのではないと思っていました
- 1962 そこに王はアペレスに床<sup>とこ</sup>を設えるように命じました  
ミダス王の財を持ってしても買えないほどのものを  
それほどまでにアレクサンダーは新婦を尊ぶ事を望んだのです  
—その様な寝台はローマででも讃えられるでしょう—<sup>212)</sup>
- 1963 人がその匠の技をあなた達に語うとしても  
それを見た事の無いに人は狂気に思えたでしょう  
それを日々愛でている人々にも  
そういう人々にとっても常ならぬ物だったでしょう
- 1964 王は結婚式を終えると  
直ちに手紙を何通か書いて封印しました  
すべての戦い、すべての遠征が  
そこには書き留められていました
- 1965 それらをギリシャの親愛なる母に  
幼くして残してきた妹たちに  
そして白い髭を生やした良き師に  
多くの良き助言をしてくれたあの師に送りました

## 1966 手紙がギリシャに着くと

喜んで受け取られ、直ちに読まれ

母と娘たちは喜び、満足しました

師は歓喜してして三歩飛び跳ねました

## 1967 ギリシャの婦人たちは大いに喜び

また同じ日数をかけて結婚式をやり直しました

歌の中にアレクサンダーの武勲を入れました

エリアが来るまで語り伝えられるように<sup>213)</sup>

## 注

- 179) マケドニアの兵士
- 180) 具体的に何を指しているのか不明
- 181) 歌を伴う踊りの一種
- 182) イスラエル最初の王、旧約聖書サムエル記上
- 183) エジプトの砂漠
- 184) アラビアの町、シバの女王で有名
- 185) 旧約聖書ダニエル書
- 186) この連はすべてラテン語で書かれている
- 187) 中世期教会に収めなければならなかった
- 188) 「小人閑居して不善を為す」の類か
- 189) 中世期には高利貸しは教会法で禁じられていた
- 190) ここから数連はこの書の著者も含めて、中世の世相を嘆いている
- 191) カスピ海の南東岸にある古代ペルシャの州
- 192) コーカサス辺りにいたと言われるアマゾン族の地
- 193) 性行為はヒステリーに効くと考えられていた
- 194) アテネの王パンディオン一世の娘で、神々によってツバメに変えられた
- 195) アレクサンダー大王の宮廷で活躍した画家で、自分自身にも厳しいので有名
- 196) ホメロス以前の最大の詩人、数々の伝説がある
- 197) 性的関係を持ったことの遠回しの表現
- 198) 当時フランスはまだなかった

- 199) 「戦利品が多すぎて行軍では運べないで、周囲の民に睨みを利かせて運ばせようとしたがダメだった」の意か
- 200) アレクサンダーの最年長の將軍の息子で裏切りのかどで処刑される
- 201) 陰謀を知らせた兵士
- 202) 処刑方法もユダも時代のずっと下った新約聖書の世界である
- 203) ロシアのドン川
- 204) 旧約聖書ヨブ記（1、21）
- 205) アレクサンダーのこと
- 206) この部分ラテン語、スペイン語化されたラテン語 Deo graçias. 正しくは Deo gratias.
- 207) 象徴的に、「懲らしめる」
- 208) 202 に同じ
- 209) おどけて？
- 210) この連文意不明
- 211) ダリウスの娘とも結婚するがこれはサトラップの娘で別の相手
- 212) ここでも時代が混同されている
- 213) エリアは旧約の預言者で、最後の審判の前に現れるとマラキ書（旧約聖書）に預言されている  
ここでも大きな混同が見られる

## 参考図書・辞書

- Libro de Alexandre Real Academia Española Madrid 2014
- Libro de Alexandre Nueva Biblioteca de Erudición y Crítica  
Editorial Castalia Madrid 2007
- Libro de Alejandro Editorial Castalia Madrid 1985
- Book of Alexander Peter Such and Richard Rabone Oxbow Books Oxford 2009
- Vocabulario de Libro de Alexandre Anejos del Boletín de la Real Academia Española Madrid 1976
- アレクサンドロスの手・アポロニオの手 橋本一郎 大学書林 1991
- Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986
- Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Alfospolis 2002
- Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian The Hispanic Seminary of  
Medieval Studies New York 2001
- Larousse Universal diccionario enciclopédico Librairie Larousse París 1968